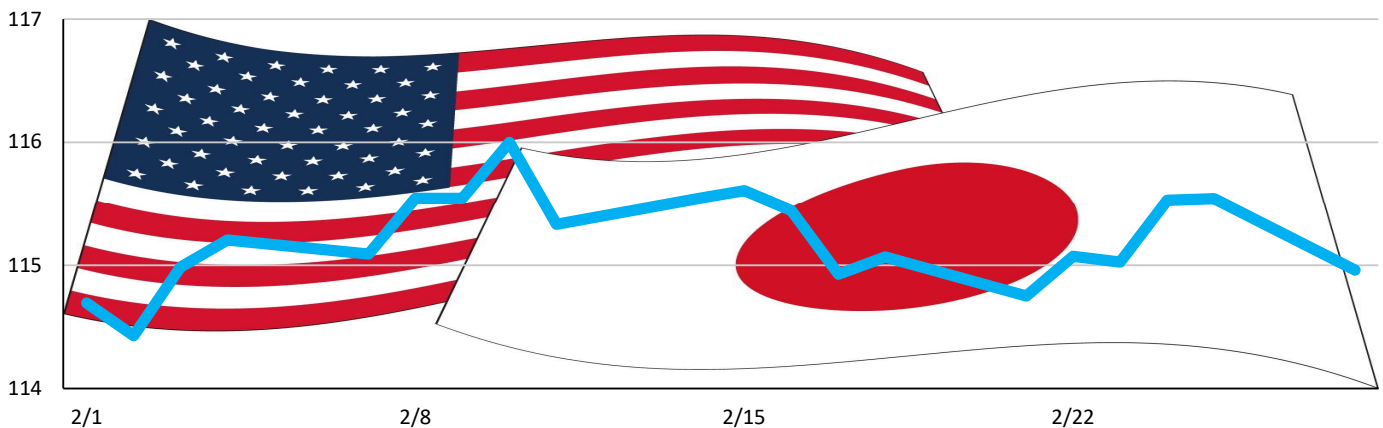


MARKET REVIEW

先月の振り返り：2月のドル円相場は114円前半～116円半ばで推移。月初は米連銀長官のタカ派スタンス後退発言でドル安となったものの、良好な米経済指標発表が続いたことや米国の利上げペースが早まるのではという思惑も台頭しドル円は116円台半ばまで上昇。その後ウクライナ情勢の見通しが不透明となってきたことでリスク回避の動きが広がりを見せていた中、プーチン大統領がウクライナ東部のドネツク州とルガンスク州の独立を承認したことで金融市場が動揺し114円台半ばまでドル売りが進んだ。ただ流れが一巡すると国際取引の基軸通貨としてドルを買う動きが強まり115円台後半まで買い戻されたものの、ロシアとウクライナの停戦協議が合意に至らなかったことで、再びリスク回避の動きとなるなど荒い動きだった。

(円) 米ドル円為替レート(終値ベース)



EXTRA VISION

今後の展開：欧米諸国がロシアに対する経済制裁を発動、対するロシアも軍事攻勢を強めている中、ロシアとウクライナの停戦協議が難航していることで戦局の悪化が懸念される。仮にウクライナ問題が長期化した場合、リスク回避の動きが継続し、景気減速懸念による株売りや資源価格の上昇、米国利上げを織り込んだドル買いが鈍化する可能性がある。ただドル円はリスク回避の円買いと有事のドル買いに挟まれる形で方向感が見いだせずにいるため、短期的な乱高下に注意を払っておきたい。

今月の主な経済指標 ※ 日本時間

日付	時間	国	指標名	重要度
3 / 16 (水)	21 : 30	US	小売売上高	☆☆☆☆
3 / 17 (木)	3 : 00	US	米連邦公開市場委員会 (FOMC)	☆☆☆☆☆
3 / 18 (金)	** : **	JP	日銀金融政策決定会合	☆☆☆☆
3 / 30 (水)	21 : 30	US	米GDP確定値	☆☆☆☆
4 / 1 (金)	21 : 30	US	米雇用統計	☆☆☆☆☆
4 / 12 (火)	21 : 30	US	消費者物価指数 (CPI)	☆☆☆☆
4 / 14 (木)	20 : 45	EU	欧州中央銀行 (ECB) 政策金利	☆☆☆☆

本書面は、合同会社フィナンシャルヴィレッジプレゼンス(以下「当社」)が、投資一般に関する情報提供を目的とするものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。本書面に記載されている情報には将来的な業績や出来事に関する予想が含まれていることがありますが、それらの記述はあくまで予想であり、その内容の正確性、信頼性等を保証するものではありません。また、情報の正確性については万全を期しておりますが、その正確性、信頼性等を保証するものではありません。投資に関するすべての決定は、ご自身の判断でなさるようお願い致します。本書面に記載されている情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切の責任を負いません。